

## 温室効果ガス削減実施状況報告書

### 1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社 ワイテック 海田工場

(2) 事業所の所在地

広島県安芸郡海田町曾田3-74

(3) 業種

3133 自動車部分品・付属品製造業

### 2 計画の期間

本計画の期間は、平成 28 年度(2016年度)を基準年度とし、平成 29 年度(2017年度)から令和 3 年度(2021年度)までの5年間とする。

### 3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO<sub>2</sub>），削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量 (a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成28年度 (2017年度)	令和3年度 (2021年度)	平成29年度 (2018年度)	平成30年度 (2019年度)	令和元年度 (2020年度)	令和2年度 (2021年度)	令和3年度 (2022年度)
エネルギー 起源CO <sub>2</sub>	7,154	6,697 -6.4	7,174 -0.3	6,939 3.0	5,779 19.2	4,802 32.9	4,535 36.6
非エネルギー 起源CO <sub>2</sub>		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 実排出量総計	7,154	6,697 -6.4	7,174 -0.3	6,939 3.0	5,779 19.2	4,802 32.9	4,535 36.6
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価	基準年度に比較してCO <sub>2</sub> 排出量が36.6%と大幅に減少しているが、コロナ禍の影響による生産量の減少の影響があるために排出量削減を評価できない。						

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100      削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 生産個数

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a)	目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成28年度 (2017年度)	令和3年度 (2021年度)	平成29年度 (2018年度)	平成30年度 (2019年度)	令和元年度 (2020年度)	令和2年度 (2021年度)	令和3年度 (2022年度)
エネルギー 起源CO <sub>2</sub>	0.000165	0.000152 -7.9	0.000165 0.0	0.000160 3.0	0.000183 -10.9	0.000176 -6.7	0.000178 -7.9
非エネルギー 起源CO <sub>2</sub>		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 排出量総計	0.000165	0.000152 -7.9	0.000165 0.0	0.000160 3.0	0.000183 -10.9	0.000176 -6.7	0.000178 -7.9
エネルギー消費原 単位 (原油換算 kl)	0.000059	0.000055 -6.8	0.000059 0.0	0.000057 3.4	0.000068 -15.3	0.000074 -25.4	0.000079 -34.4
実績に対する 自己評価	コロナ禍による生産調整が発生したために効率的な生産が出来ず、結果として原単位評価で基準年度に比較して増加傾向となってしまった。						

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100      削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

#### 4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

##### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	電気使用量の削減	電気使用量原単位で 前年度比1.5%削減を 目標とする	設備と連動した機器の自動運転化 省エネ型照明設備の導入 不要設備の電源OFF 冷暖房温度の適正管理 設備動作の効率化による省エネ改善の実施 インバータを活用した機器運転の導入 休憩時間の徹底した消灯活動の実施 データによる無駄の発見と対策の実施
2	化石エネルギー 使用量の削減 (ガソリン、軽油)	化石エネルギー使用量 前年度比 1.5%削減を 目標とする	荷置レフト最適化によるフォークリフトの走行距離短縮（軽油） 軽油の使用量監視 使用機会ごとの燃料使用量監視（ガソリン） ドライブレコーダーによるフォークリフト運転状況監視
3			
4			

##### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

##### ○ その他の取組

	項目	削減量等	具体的な取組
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。